

～八幡平市における地域社会・職場の女性の参画～

平成27年地域政策研究センター(地域提案型・前期) 採択課題

課題名 : 地域社会における女性の意思決定場面への参画に関する研究
研究代表者 : 総合政策学部 教授 吉野英岐
課題提案者 : 八幡平市
研究メンバー : 高橋潤、泉山美穂(八幡平市地域振興課)
キーワード : 男女共同参画、地域社会、企業団体、意思決定場面

▼研究の概要(背景・目標)

今日、地域社会や企業団体において意思決定場面への女性の登用は十分には進んでいない。本研究は八幡平市における男女共同参画社会の実現に向けて、地域社会や職場で男女が共に活躍できる環境の整備や意識の改革について、実態と課題を明らかにする。



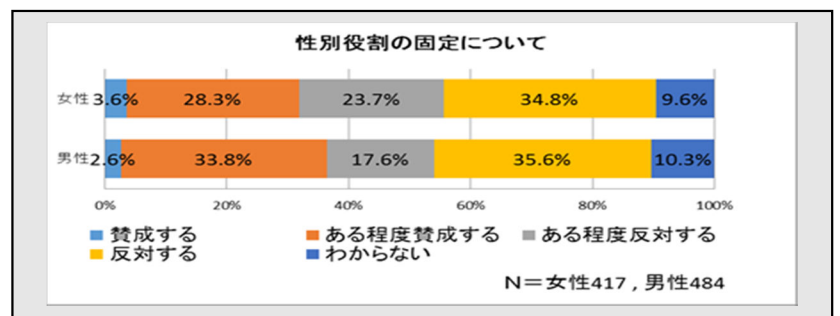
企業への聞き取り調査



地域社会でのワークショップ

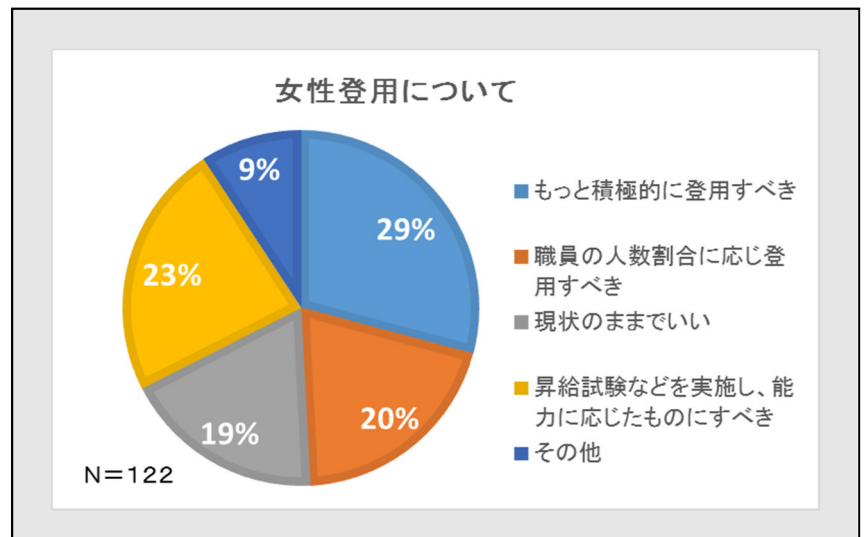
▼研究の内容(方法・経過)

1. 八幡平市の住民3140名を対象にした男女共同参画に関するアンケート
2. 市内の企業団体200社を対象にした就業場面に関するアンケート
3. 市内の3つ地域振興協議会の役員等を対象にしたワークショップ
4. 4つの企業団体を対象とした聞き取り調査



▼研究の成果(結論・考察)

1. 性別役割を固定する考え方については男女とも否定的な回答が4割以上を占めている。
2. 企業団体の管理職は、「すべて男性」が53%、複数の女性管理職のいる割合は10%である。今後の女性の登用については、「現状のままでいい」は19%と比較的少なく、「もっと積極的に登用すべき」という意見が29%とほぼ3割に達している。



▼おわりに(まとめ・今後の展開)

1. 意識の変化はみられるが、意思決定場面への女性の参画はまだ十分でない。
2. 若い世代の女性に意識の変化の兆しはあるが、家事育児介護などの面で、女性をとりまく生活環境が整っておらず、現状では参画した場合は女性の負担が増えることが懸念されている。
3. 身近な生活環境を改善していくために、地域協議会で意見交換の場を積極的に作っていく必要がある。
4. 職場では、経営者層の意識改革および女性職員への研修や訓練の機会の充実が必要で、そのための行政支援の強化が望まれる。